

# 和歌山縣報

第千四號

明治四十三年八月三十日

## ○告示

○和歌山縣告示第二百八十六號

本縣日高郡野口村大字野口耕地整理規約中ニ變更ノ必要ヲ認メ明治四十三年八月二十七日之カ變更ヲ命ジタリ

明治四十三年八月三十日

和歌山縣知事 川上親晴

○和歌山縣告示第二百八十七號

高知縣ニ於テ牛疫豫防ニ關スル本年<sup>四</sup>月縣令第十號ハ本月十日限り廢止セシ旨通知アリタリ

明治四十三年八月三十日

和歌山縣相事 川上親晴

○和歌山縣告示第三百八十八號

兵庫縣美方郡村岡町ニ於テ本月二十二日和種牝牛一頭炭疽ニ罹リ即日斃死セシ旨通知アリタリ

明治四十三年八月三十日

和歌山縣知事 川上親晴

○和歌山縣告示第二百八十九號

海草郡和歌浦町七百六番地

開業産婆

前田 春

右ノ者今般和歌山市十二番丁八番地へ轉住ノ旨ヲ以テ訂正願出ニ依リ本日和歌山縣産産名簿ヲ訂正ス

明治四十三年八月三十日

和歌山縣知事 川上 親晴

○和歌山縣告示第二百九十號

三重滋賀兵庫ノ各縣ニ於テ牛疫豫防ニ關スル左記縣令發布ノ旨通知アリタリ

明治四十三年八月三十日

和歌山縣知事 川上 親晴

○三重縣令第五十七號

牛疫豫防ノ爲メ明治二十九年法律第六十號獸疫豫防法第十二條ニ依リ左ノ府縣下ヲ發シ若ハ通過シ來ル牛羊山羊又ハ生皮生骨生肉生乳其他該病汚染ノ疑アル物品ノ輸入ヲ停止ス但蒸車船舶積込ノ儘通過スルモノ又ハ同府縣下中牛疫發生地以外ノ郡市ヲ發シ若ハ通過シタルコトヲ証スル警察官署ノ証明書ヲ有スルモノハ此ノ限リニアラス  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年八月十九日

三重縣知事

東京市東京府北豐島郡豐多摩郡神奈川縣

○滋賀縣令第五十一號

牛疫豫防ノ爲メ左記ノ地ヲ發シ若ハ同地ヲ經過シタル牛羊山羊及其ノ生肉生乳生皮生骨其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ輸入ヲ停止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

但シ汽車積込ノ儘同地方ヲ通過シタルモノ又ハ左記府縣下中該病發生地以外ノ地方ヲ發シ若  
ハ通過シ來リタルユトヲ証スル警察官署ノ証明書ヲ有スルモノハ此限リニアラス

明治四十三年八月十七日

滋賀縣知事 川島 純 幹

左 記

一東京府

○兵庫縣令第三十九號

牛疫豫防ノ爲メ 獸疫豫防法第十二條第一項ニ依リ左記地方ヲ發シ又ハ通過シタル牛羊山羊其ノ  
他病毒汚染ノ疑アル物品ノ輸入ヲ停止ス但シ汽車船舶積込ノ儘同地方ヲ通過シタルモノ又ハ牛  
疫發生地以外ノ郡市ヲ發シ若ハ通過シタルコトヲ証セル官公署ノ証明書ヲ有スルモノハ此ノ限  
リニアラス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年八月十九日

兵庫縣知事 服部 一 三

一東京府

### ○ 辭 令

○明治四十三年八月二十七日

任和歌山縣警部

小野 淺 次 郎

給月俸貳拾參圓

警察部保安課勤務ヲ命ス

願ニ依リ職務ヲ免ス

○明治四十三年八月二十八日

和歌山縣立和歌山中學校合暨ニ兼任ス

月手當參圓ヲ給ス

休職土木技手

萩原菊次郎

和歌山中學校教諭

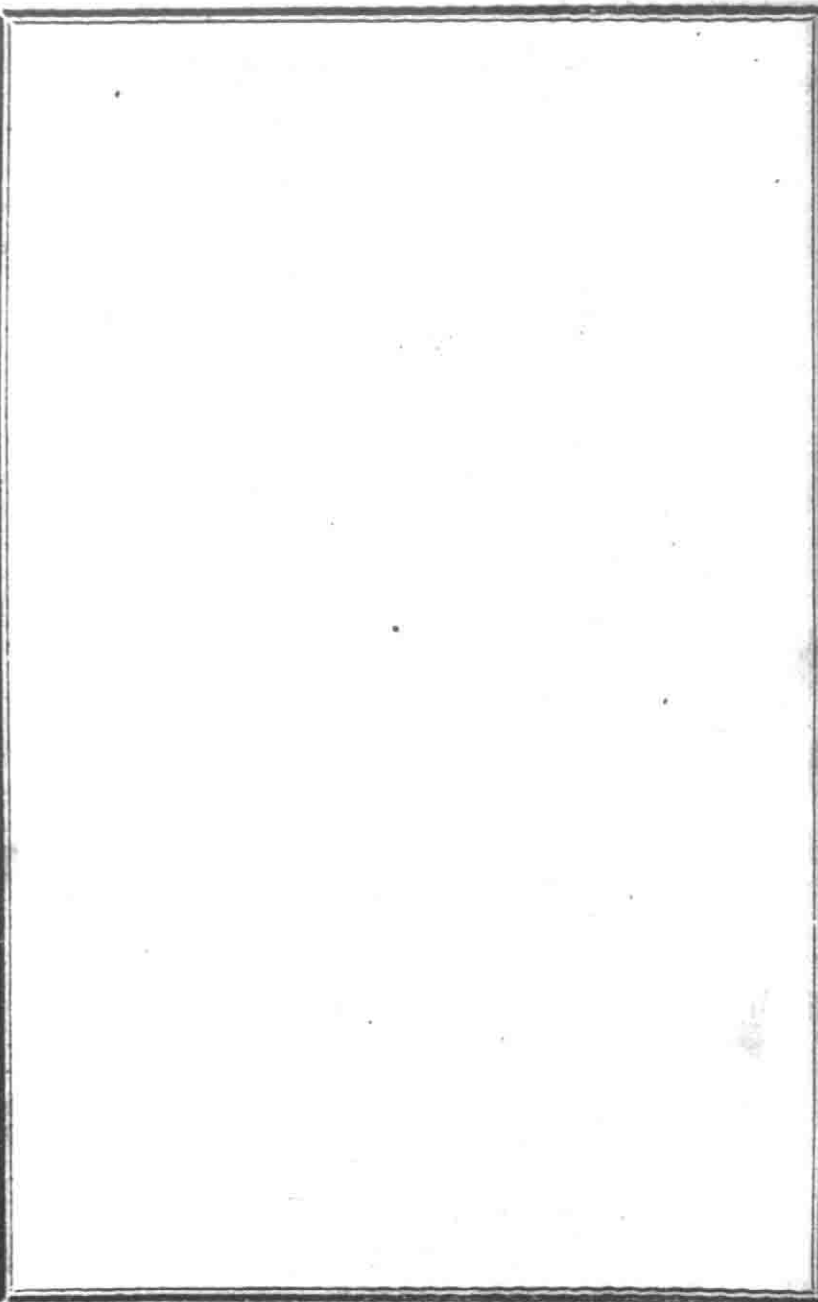
上野 皎 治

# ○觀象

自八月廿五日至八月廿七日氣象

(和歌山測候所觀測)

種目	八月廿五日		八月廿六日		八月廿七日	
	前年	本年	前年	本年	前年	本年
平均氣壓	七五八耗三	七五八耗八	七五七耗六	七五九耗九	七五六耗九	七五九耗一
平均氣溫	二五度九	二八度九	二六度二	二七度二	二七度〇	二六度八
最高氣溫	三一度五	三四度七	三一度五	三一度二	三二度〇	三一度五
最低氣溫	二一度一	二三度六	二一度七	二四度三	二二度九	二三度一
最多風向	西	北	南西	西	南	南西
平均風力	二米六	二米三	三米三	二米六	三米二	二米九
天氣	晴	晴	晴	晴	晴後曇	晴後曇
降水量						○耗〇
記事現象	午前十時五十一分 十七秒地震	晝間南々東ニ雷鳴	午前九時十分廿三 秒微震夜間西方ニ 電光	晝間南東ニ雷鳴	曉間南々西ニ電雷	晝間東南東ニ雷鳴 午後驟雨夜間北西 方ニ電光



明治四十三年七月二十九日印刷  
明治四十三年八月十日發行

(經月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日發行)

和歌山縣知事官房

印刷所 和歌山市北休賀町六番地  
電話 七  
宗  
版  
部